

本資料は 2022 年 7 月 27 日にチューリッヒで発表されたメディアリリースの翻訳版（要旨）です

クレディ・スイスは 2022 年第 2 四半期において、CET1 比率 13.5% と共に、純収益は 36 億スイス・フラン、税引前損失は 12 億スイス・フランと公表

「2022 年第 2 四半期の当行の業績は、特にインベストメント・バンク部門において低迷し、高額な訴訟引当金およびその他の調整項目による影響も受けました。当行の業績は、地政学的、マクロ経済的および市場における逆風を含む数々の外部要因に大きく左右されました。これらの困難な状況は、当行の 4 部門すべてにおける優れた顧客基盤という強みに影を落とす結果を招きました。決断力ある行動を迫られていることは明白であり、インベストメント・バンク部門の抜本的な改革の下、ウェルス・マネジメント部門、スイス銀行部門およびアセット・マネジメント部門の事業への転換強化を目指した包括的な見直しが行われています。さらに当行は、中期的に絶対的なコストベースを 155 億スイス・フラン未満まで削減するために、より幅広い費用効率の拡大およびデジタル・トランスフォーメーション・プログラムを開始しました。

本日、クレディ・スイスのリーダーが交代しました。この 23 年間クレディ・スイスに勤めたことを大変光栄に思います。顧客に最高のサービスを提供することは、入社初日からの私の情熱でした。2015 年に業務執行役員会に加わってから、リーダーとして結果を出すことと、パートナーシップ、説明責任および誠実さをはじめとする当行の価値を尊重することに注力してきました。」

クレディ・スイス・グループ AG 最高経営責任者（CEO）トーマス・ゴットシュタイン

経営陣の変更および包括的な戦略の見直しについては 2022 年 7 月 27 日に公表された追加のメディアリリースをご参照ください。

2022 年第 2 四半期クレディ・スイス・グループの業績

公表財務指標 (百万スイス・フラン)	2022年 第2四半期	2022年 第1四半期	2021年 第2四半期	2022年 第1四半期比	2021年 第2四半期比	2022年 上半期	2021年 上半期	2021年 上半期比
純収益	3,645	4,412	5,103	(17)%	(29)%	8,057	12,677	(36)%
貸倒引当金	64	(110)	(25)	-	-	(46)	4,369	-
営業費用合計	4,754	4,950	4,315	(4)%	10%	9,704	8,252	18%
税引前利益 / (損失)	(1,173)	(428)	813	-	-	(1,601)	56	-
実効税率	(36)%	35%	70%	-	-	(17)%	71%	-
株主帰属純利益 / (損失)	(1,593)	(273)	253	-	-	(1,866)	1	-
有形株主資本利益率	(15.0)%	(2.6)%	2.6%	-	-	(8.9)%	0.0%	-
費用収益比率	130%	112%	85%	-	-	120%	65%	-
新規純資産 (NNA) (十億スイス・フラン)	(7.7)	7.9	(4.7)	-	-	0.2	23.7	-
運用資産 (AuM) (十億スイス・フラン)	1,454	1,555	1,632	-	-	1,454	1,632	-

調整後*(百万スイス・フラン)	2022年 第2四半期	2022年 第1四半期	2021年 第2四半期	2022年 第1四半期比	2021年 第2四半期比	2022年 上半期	2021年 上半期	2021年 上半期比
純収益	3,820	4,582	5,226	(17)%	(27)%	8,402	12,656	(34)%
貸倒引当金	64	45	(95)	-	-	109	(131)	-
営業費用合計	4,198	4,237	4,008	(1)%	5%	8,435	7,878	7%
税引前利益 / (損失)	(442)	300	1,313	-	-	(142)	4,909	-

2022 年第 2 四半期の資本比率

13.5%

CET1 比率

対する 2021 年第 2 四半期は 13.7%

4.3%

CET1 レバレッジ比率

対する 2021 年第 2 四半期は 4.2%

6.1%

ティア 1 レバレッジ比率

対する 2021 年第 2 四半期は 6.0%

2022 年第 2 四半期業績の概要

2022 年 6 月 8 日付のトレーディング・アップデートに記載の通り、第 2 四半期は困難な経済状況および市況により特徴付けられました。ロシアによるウクライナ侵攻後の地政学的な現状と、大幅なインフレへの対応としての主要中央銀行数行による大規模な金融引締めの方により、市場のボラティリティの高まり、顧客フローの弱まりおよび継続的な顧客のレバレッジ解消が続いています。

インベストメント・バンク部門の業績は、資本市場での発行業務の大幅な減少および顧客取引活動の減少による影響を受けましたが、堅調な M&A アドバイザリー収益の増加により一部相殺されました。インベストメント・バンク部門のフランチャイズのポジションは、不安定な市況の恩恵を受けるように設計されておらず、資本市場などの当行の強みがある分野は多大な影響を受けました。

ウェルス・マネジメント部門の業績は、顧客取引活動、取引高および経常収益の減少による負荷を受けました。しかし、ウェルス・マネジメント部門およびスイス銀行部門は、純利息収益の増加につながる金利環境の改善により恩恵を受けました。

2022 年第 2 四半期において、純収益は前年同期比で 29% 減少しました。これは、インベストメント・バンク部門における純収益が米ドルベースで 43% 減少、ウェルス・マネジメント部門における純収益が 34% 減少、およびアセット・マネジメント部門における純収益が 25% 減少したことによるものでした。スイス銀行部門の純収益は、前年同期比で 3% 増加しました。公表した純収益には、オールファンズ・グループへの持分投資による 1 億 6,800 万スイス・フランの評価損が含まれています。調整後純収益は、前年同期比で 27% 減の 38 億スイス・フランとなりました。これには、市況がより不利になったことによる、インベストメント・バンク部門内のレバレッジド・ファイナンスにおける 2 億 4,500 万米ドルの時価評価による損失が含まれています。

公表した営業費用は、前年同期比で 10% 増の 48 億スイス・フランとなりました。これには、4 億 3,400 万スイス・フランの主要な訴訟引当金が含まれています。かかる引当金は、未承認の電子メッセージ送受信チャネルを通じたビジネス・コミュニケーションに関する記録保全要件の遵守に係る事案を含む、過去に開示した訴訟案件の進展に主に関連するものです。調整後営業費用は、5% 増の 42 億スイス・フランとなりました。これは主に投資支出の増加によるものでした。

2021年第2四半期における8億1,300万スイス・フランの税引前利益と比較して、12億スイス・フランの税引前損失を計上しました。2022年第2四半期における調整後税引前損失は、2021年第2四半期と比較して大幅に減少し4億4,200万スイス・フランでした。2021年第2四半期における2億5,300万スイス・フランの株主帰属純利益と比較して、16億スイス・フランの株主帰属純損失を計上しました。

2021年第2四半期における47億スイス・フランの純資産流出と比較して、2022年第2四半期における当グループの純資産流出は77億スイス・フランとなりました。ウェルス・マネジメント部門およびスイスのプライベート・バンキング事業を含むグローバル・ウェルス・

マネジメントは、2022年第2四半期において18億スイス・フランの緩やかな純資産流出を計上しました。これは主に、EMEAおよびスイスにおける純資産流出が、アジア太平洋および南北アメリカにおける純資産流入により一部相殺されたことによるものでした。2022年第2四半期における当グループの運用資産は1.5兆スイス・フランとなり、2022年第1四半期末現在の1.6兆スイス・フランから減少しました。

当行は強固な資本基盤を維持し、2022年第2四半期末のCET1資本比率は13.5%と当行の指針の範囲内でした。2022年第2四半期末のCET1レバレッジ比率およびティア1レバレッジ比率は、それぞれ4.3%および6.1%と横ばいでした。

2022年上半期業績の概要

2022年上半期において、純収益は前年同期比で36%減少しました。これは、インベストメント・バンク部門における純収益が米ドルベースで48%減少、およびウェルス・マネジメント部門における純収益が39%減少したことによるものでした。また、アセット・マネジメント部門における純収益は前年同期比で18%減少した一方、スイス銀行部門における2022年上半期の純収益は5%増加しました。公表した81億スイス・フランの純収益には、1億7,700万スイス・フランの不動産利益が含まれ、オールファンズ・グループへの持分投資に関連する5億2,100万スイス・フランの評価損により一部相殺されました。調整後純収益は、前年同期比で34%減の84億スイス・フランとなりました。当行の業績は、継続的なマクロ経済、地政学的な困難ならびに市場の逆風による影響を受けました。

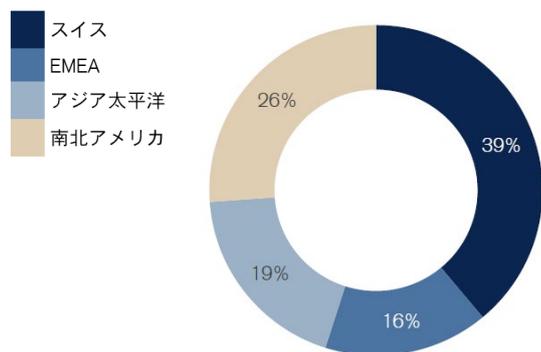
公表した営業費用は、前年同期比で18%増の97億スイ

ス・フランとなりました。これは主に11億スイス・フランの訴訟引当金によるものでした。調整後営業費用は、7%増の84億スイス・フランとなりました。これは、当グループの戦略に関する3億3,100万スイス・フランの投資支出の増加、ならびにリスク、コンプライアンスおよびインフラにおける改善費用の支出増加によるものでした。

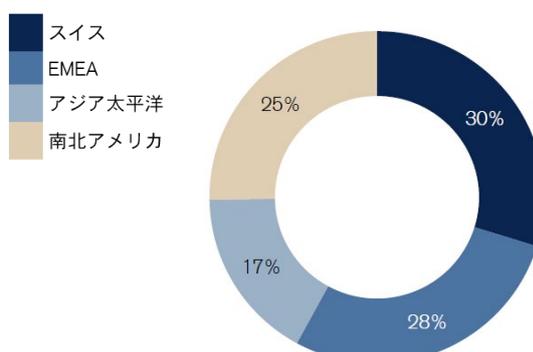
2021年上半期における5,600万スイス・フランの税引前利益と比較して、当行は2022年上半期において16億スイス・フランの税引前損失を計上しました。2021年上半期における調整後税引前利益が49億スイス・フランと特に堅調だったのに対し、2022年上半期における調整後税引前損失は1億4,200万スイス・フランでした。

当グループの新規純資産は、2021年上半期の237億スイス・フランに対し、2022年上半期は2億スイス・フランでした。

2022年第2四半期および2021年第2四半期における地域別の純収益



2022年第2四半期の地域別純収益
十億スイス・フラン



2021年第2四半期の地域別純収益
十億スイス・フラン

見通し

2022年上半期の業績結果は、困難を伴う経済環境と市況のほか、過去の訴訟引当金および当行によるオールファンズへの投資の時価の下落に起因する損失により多大な影響を受けました。ロシアによるウクライナ侵攻後の地政学的な現状と、インフレ対策として主要な中央銀行数行によって実施された大規模な金融引締めの方により、2022年の現時点に至るまで引き続き変動性が高まり、かつ顧客リスク回避の動きも高まっています。スイス銀行部門は引き続き堅調な業績を上げており、またウェルス・マネジメント部門は金利上昇による利益を享受しています。インベストメント・バンク部門では、エクイティ・デリバティブが第2四半期としては近年で過去最高の業績¹を達成、アドバイザリー収益が増加し、困難が増す状況にもかかわらず証券化商品事業が堅調な業績を計上しました。しかしながら現在の市況は、ウェルス・マネジメントおよびインベストメント・バンク両部門の顧客取引活動に悪影響を及ぼしました。インベストメント・バンク部門は、とりわけ業界全体における資本市場の発行高の減少と信用スプレッドの拡大の悪影響を受け、その結果、2022年第2四半期においてレバレッジド・ファイナンス・ポートフォリオが主に短期貸付で2億4,500万米ドルに上る時価評価による損失を計上しました。さらに、現在の金融環境によって好影響を受けた金利取引等の事業分野に対するインベストメント・バンク部門のエクスポージャーは、比較的限定されています。

かかる市況は今後数カ月間継続すると予想しています。インベストメント・バンク部門内では、活発な取引パイプラインを有しているものの、現在の市況では実行が難しい可能性があります。2022年第3四半期では、顧客取引活動が脆弱なまま推移しており、通常の時期的な下落幅を下回っています。そのため当該部門は、当該四半期において追加損失を計上する見込みです。とはいえ、スイス銀行部門においては、スイス国立銀行がスイス・フランの金利引上げを決定したものの引き続き堅調な業績を計上すると当行は予想しています。また、ウェルス・マネジメント事業では顧客取引活動が低水準にとどまり続け、経常収益が低迷する市場水準を反映し続ける見込みですが、当該部門は、特に米ドルに対するエクスポージャーに関連し、既に高金利に起因する利益を享受しています。なお、当行は、アセット・マネジメント部門の業績は2022年下半年に回復すると予想しています。

こうした環境下では、費用抑制が特に重要です。別途発表した通り、取締役会および業務執行役員会は、中期的に当行の絶対的なコストベースを155億スイス・フラン未満まで削減するために、より幅広い費用効率の拡大およびデジタル・トランスフォーメーション・プログラムを開始しました。クレディ・スイスは、2022年第3四半期の業績報告の中で、具体的な業績目標を含む戦略的な見直しに関する進捗状況の詳細を公表する予定です。

当行の資本状況については、規律ある資本使途の継続に支えられ、2022年の残りの期間につきCET1比率は13%から14%の間で推移する見込みです。

主なグループ戦略の実行に向けた措置および進捗状況

6月のインベスター・デュープ・ダイブで示した通り、当行は、2022年通年で戦略プランを実行すること、ならびに顧客に寄り添いながらリスク管理文化を厳格に強化することに注力して取り組んでいます。

当行のコストベースの取組みは優先事項として掲げられています。当行は、中期的に絶対的なコストベースを155億スイス・フラン未満まで削減することを目指し、費用効率の拡大およびデジタル・トランスフォーメーション・プログラムを発表しました。デジタル・トランスフォーメーション・プログラムには、フロントオフィスからバックオフィスまでの手続の簡素化、手動によるデータ取扱および複製の削減、ならびに拡張可能なクラウドベースのインフラの利用拡大等の措置が含まれています。絶対的なコストベースの新規目標値には、当行の中核事業に継続的に割り当てられている投資支出が控除されています。クレディ・スイスは、2022年第3四半期の業績報告の中で、具体的な業績目標を含む戦略的

な見直しに関する進捗状況の詳細を公表する予定です。

2022年第2四半期において、当グループ戦略に関連して以下を実現しました：

- インベストメント・バンク部門に割り当てられた資本の30億米ドル超を2022年末までに移動させるという目標を、目標時期よりも早期に33億米ドル達成しました。
- 当グループの信用ポートフォリオの前年同期比7%減（非投資適格債ポートフォリオの15%減を含む）、新興市場ポートフォリオの18%減、および2021年末以降のロシアに対する純信用エクスポージャーの70%超減を実現しました。
- 2022年第2四半期の主要な訴訟引当金として4億スイス・フランを計上しました。訴訟の解決に向けて積極的に取り組んでいます。
- さらにクレディ・スイスは、インベストメント・バンク部門の抜本的な改革の下、ウェルス・マネジメント部門、スイス銀行部門およびアセット・マネジメント部門の事業への転換強化を目指した包括的な見直しが進行中である旨を発表しました。

本資料はクレディ・スイス・グループが発表したメディアリリースの翻訳版（要旨）です。メディアリリースの正確な内容は、クレディ・スイス・グループの[ウェブサイト](#)に掲載されたオリジナル版をご参照ください。

* 当グループの業績に含まれる一定の項目除いた業績を示しています。これらの業績は、非 GAAP の財務指標です。最も直接的に比較可能な米国 GAAP 指標との調整については本メディアリリースオリジナル版の別表をご参照下さい。

脚注

1 2016年第2四半期以来、エクイティ・デリバティブの業績は第2四半期として過去最高となりました。